# Ⅶ　ＮＡＣＣＳのこれまでのあゆみ

## 航空システム

**1978年（昭和53年）**
**Air-NACCS（第１次）**

航空貨物の輸入システムの稼働開始（貨物情報を含む総合物流情報システム化）

（業種）
・航空会社
・通関業
・航空貨物代理店
・機用品業
・保税蔵置場
・銀行
・混載業
・税関

**1985年（昭和60年）**
**Air-NACCS（第２次）**

航空貨物の輸出入システムの稼働開始

・輸出業務提供開始
・対象地域拡大

**1993年（平成５年）**
**Air-NACCS（第３次）**

・機能拡充
・対象地域拡大

**2001年（平成13年）**
**Air-NACCS（第４次）**

・機能拡充

・ＥＤＩ化
⇒ 専用端末廃止
⇒ SMTP 双方向導入

1997年（平成９年）
ＦＡＩＮＳ／PQ-NETWORK／ＡＮＩＰＡＳとのインターフェース（Ｉ／Ｆ）開始

2002年（平成14年）
ＪＥＴＲＡＳとのＩ／Ｆ開始

2003年（平成15年）
輸入・港湾関連手続ＳＷ開始

2003年（平成15年）
ｎｅｔＮＡＣＣＳ 提供

**現行ＮＡＣＣＳ（第５次）**

**2010年（平成22年）**
**Air-NACCS（第５次）**

・機能拡充
・ＪＥＴＲＡＳのサブシステム化
・航空入出港ＳＷ開始

○空／海システムの統合
○オープンシステム化
○バックアップ設置
○総合物流情報プラットフォーム化
⇒ 国際連携機能の拡充
・ＸＭＬ対応
⇒ 業種拡大
・輸出入者
・ＮＶＯＣＣ
・海貨業
・汎用業務利用者

・機能拡充
・府省共通ポータル稼働
・港湾ＥＤＩシステムのサブシステム化

**Sea-NACCS（第３次）**
**2008年（平成20年）**

2011年（平成23年）
ＷｅｂＮＡＣＣＳ提供

2013年（平成25年）
FAINS/PQ-NETWORK/ANIPASのNACCS統合

2014年（平成26年）
医薬品医療機器等
輸出入業務のシステム化

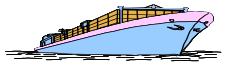
**第６次ＮＡＣＣＳ**

## これまでのＮＡＣＣＳにおいて実施してきたこと

○ 税関関係手続の電子化
・システム化対象範囲の拡大　※ 航空/海上システム統合
○ 関係省庁手続の電子化
・各省システムのＮＡＣＣＳ接続（連携）ﾜﾝｽﾄｯﾌﾟ、SW
・ＮＡＣＣＳへの統合（２段階：ｻﾌﾞｼｽﾃﾑ化、ﾊｰﾄﾞ統合）
○ 民間手続の電子化
・官手続に先行後続 ⇒ 情報連携に資する 民･民手続
○ 国際連携の推進

◎ 上記の開発での考慮事項
安定性・信頼性、　効率性・経済性、　利便性

## 海上システム



海上貨物の輸出入通関システムの稼働開始
（通関業務等のみ）

・業種
⇒ 通関業
税関
銀行

**Sea-NACCS（第１次）**
**1991年（平成３年）**

海上貨物の輸出入システムの稼働開始
（貨物情報を含む総合物流情報システム化）

・ＥＤＩ化
⇒ 専用端末廃止
⇒ メール方式導入
⇒ ＥＤＩＦＡＣＴ対応

・業種拡大
⇒ 船会社
船舶代理店
コンテナヤード
保税蔵置場

**Sea-NACCS（第２次）**
**1999年（平成11年）**